

2021 年度 日本小児耳鼻咽喉科学会 理事会議事録

日時:2021 年 7 月 7 日(水) 13 時 45 分～15 時 25 分

場所:リーガロイヤルホテル大阪 2 階 桂

出席者:伊藤真人(理事長)、足立雄一、小林一女、齋藤康一郎、阪本浩一、竹内万彦、田中 学、田中康広、土井勝美、中川尚志、仲野敦子、二藤隆春、原 浩貴、兵頭政光、増田佐和子、守本倫子、吉川 衛、吉原重美(理事)、後藤友佳子、望月博之(監事)、飯野ゆき子、市村恵一(顧問)、有本友季子、香山智佳子、小森 学、橋本亜矢子(幹事)、小林孝光(年次幹事)、深美 悟、益田 慎(アドバイザー)、吉富愛(委員〔庶務〕)、中西秀彦、早坂駿吾(事務局)

伊藤真人理事長挨拶

本理事会は出席者と委任状で定足数を満たしていることが報告された。議事録署名人には仲野理事と原理事が指名された。本理事会開催にあたっての挨拶として理事会出席者および土井勝美会長への謝辞が述べられた。

土井勝美会長挨拶

第 16 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を開催するにあたっての協力・支援に対する謝意が述べられた。

I. 報告事項

1. 庶務報告(守本理事)

1-1. 2020 年度事業報告

1. 第 15 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を 2020 年 12 月 1 日～2 日の 2 日間、高知市において高知大学耳鼻咽喉科 兵頭政光会長のもとに現地+オンデマンドのハイブリッド方式にて開催した。
2. 第 16 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を 2021 年に近畿大学耳鼻咽喉科 土井勝美会長のもと開催に向け準備をした。
3. 日本小児耳鼻咽喉科学会誌 第 41 巻 1 号、2 号、3 号を刊行した。
4. 理事会を 2020 年 7 月 3 日(web)および 2020 年 11 月 30 日に開催した。
5. 評議員会を 2020 年 7 月 31 日および 2021 年 2 月 12 日にメール審議にて行った。
6. その他学会活動を行った。

7. 日本小児耳鼻咽喉科学会 会員数:2021年3月31日現在

正会員 1,248名

購読会員 12名

寄贈会員 3名

1,263名(前年度1,231名)

(入会者136名(臨時会員含む)、退会者79名(物故者1名含む))

1-2. 2018年度会費～2021年度会費未納者の自然退会について

2018年度会費～2021年度会費未納者について、会則第9条第2項に基づき、自然退会とすることが報告された。

2. 会計:会費納入方法について(伊藤理事長)

自然退会者数を減少させるため、会費納入方法について検討を行ったことが報告された。具体的には、クレジット決済や口座振替の導入について検討を行ったが、費用が掛かるなどデメリットが多いため、従来通り、郵便振替口座を用いての会費納入を継続することとした。会費納入時、ネットバンキングが使用可能なため、次回以降の会費請求にてその旨ご案内を行うこととした。

3. 学術誌編集(二藤理事)

2020年度は学会誌第41巻1号、2号、3号の刊行となったことが報告された。

4. ホームページ広報(田中[学]理事)

国立国会図書館より、依頼文書「国立国会図書館インターネット資料収集保存事業における貴機関インターネット資料の収集等に係る許諾について」が届き、許諾をしたことが報告された。

5. 会員教育委員会(足立理事)

香取理事と今後の方針を検討の上、活動を進めたい旨、報告された。

6. 保険医療:日本小児期外科系関連学会会議出席報告(守本理事)

本学会は日本小児期外科系関連学会協議会の関連学会であるが、保険点数の加算について、関連学会がまとめて厚生労働省に要望を出している。内視鏡検査、補聴器適合検査、純音聴力検査について、3歳未満は加算があるが3～6歳には加算がないため、加算の要望を出すこと、また、鼻出血止血法についても加算の要望を出すことに決定したことが報告された。

7. 会則改定(兵頭理事)

特に報告事項なし。

8. 学術(国際)(中川理事)

特に報告事項なし。

9. 学術(国内)(小林理事)

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会より依頼のあった第 123 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会の企画への協力をお願いについて、プログラム案を提案したことが報告された。

10. 将来計画(齋藤理事)

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会からいただいた情報の中から、現時点で、本学会の将来計画と関連する分野についての報告を要する事項がないため、今後、進捗があれば活動を進める旨、報告された。

11. ダイバーシティ推進(D&I)(吉川理事)

第 121 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会の会期中に、「耳鼻咽喉科男女共同キャリア支援懇談会」が開催されたこと、第 17 回日本小児耳鼻咽喉科学会・学術講演会の足立会長に多職種についてテーマにしたシンポジウムの提案を行ったことについて、それぞれ報告された。

12. 小児科領域企画推進事業(足立理事、原理事)

我が国における小児の閉塞性睡眠時無呼吸に関する診療実態を把握するため、本学会と日本小児呼吸器学会が合同で、全国の耳鼻咽喉科医と小児科医を対象としてアンケート調査を進めている。結果は、来年(2022年)開催予定の、第 17 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会、および、第 54 回日本小児呼吸器学会にて報告予定であることが報告された。

13. その他

13-1. メール審議報告・情報配信報告(伊藤理事長)

前回新理事会(2020年11月30日開催)以降のメール審議の内容および情報配信の内容が報告された。

13-2. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会・関連する学会会議報告(伊藤理事長)

コロナ禍が落ち着いた後も、WEB 配信を取り入れた学会が一般的になることが見込まれることから、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会にて、WEB 配信を取り入れた学会を開催するためのプラットフォームを作成中であること、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会の会員情報を本学会が共同利用させていただくが、その反対(本学会の会員情報を日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会へお渡しすること)は希望しないことを日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会にお伝えしたこと、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会にてガイドラインのチェック(評価)を行っているが、学会主導でないものも含めて評価をしていただけたことになったことが、それぞれ報告された。また、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会では、現在、様々な改革を実施しており、本学会にて対応が必要な案件が生じれば対応することも併せて報告された。

13-3. 第 17 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会準備状況報告(足立次期会長)

第 17 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会における、現在の準備状況の報告がなされた。2022 年 7 月 21 日～22 日に富山国際会議場(富山市)で開催され、副会長は富山大学耳鼻咽喉科の將積日出夫先生が務め、年次幹事には富山大学小児科の加藤泰輔先生を推薦したことが報告された。

13-4. 第 18 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会準備状況報告(守本次々期会長)

第 18 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会における、現在の準備状況の報告がなされた。2023 年 11 月 9 日～10 日に別府国際コンベンションセンター(B-Con Plaza。別府市)で開催され、副会長は国立成育医療研究センター呼吸器科の肥沼悟郎先生が務め、バックアップとして慶應義塾大学名誉教授の小川郁先生が就かれることが報告された。なお、2023 年は APOG が日本で開催される年であることから、APOG と共同開催となることも併せて報告された。

13-5. APOG について(中川理事[2023 年 APOG 会長])

本年(2021 年)、11 月に APOG がベトナムで開催される予定になっているが、COVID-19 の感染拡大に伴い、開催について不透明であること、また、2023 年に開催予定の第 18 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会の会場(別府国際コンベンションセンター(B-Con Plaza))内に 1 つ会場を追加の上、APOG の会場およびポスター会場を設置予定であることが、それぞれ報告された。

II. 審議事項

1. 2020 年度決算報告(土井理事)

2020年度日本小児耳鼻咽喉科学会決算(2020年4月1日～2021年3月31日)および資産が報告され、承認された。

なお、鈴鹿有子先生(関西医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科)より寄付金を受領しており、その旨、本決算書類に記載することとなった。また、伊藤理事長より、鈴鹿先生のご意思に基づき、これからの世代を担う若手に資するように寄付金を使用していきたい旨の方針を示された。

2. 会計監査報告(後藤監事)

2020年度日本小児耳鼻咽喉科学会決算を監査した結果、適正であることが報告され、承認された。

3. 2021年度事業計画(案)(守本理事)

1. 第16回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を2021年7月8日～9日の2日間、大阪府において近畿大学耳鼻咽喉科 土井勝美会長のもとに開催する。
 2. 第17回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を2022年に富山大学小児科 足立雄一会長のもと開催に向け準備する。
 3. 日本小児耳鼻咽喉科学会誌 第42巻1号、2号、3号を刊行する。
 4. その他学会活動を行う。
- 以上、審議され、承認された。

4. 2021年度予算(案)(土井理事)

2021年度日本小児耳鼻咽喉科学会予算(2021年4月1日～2022年3月31日)について審議され、承認された。

5. 新評議員の推薦および本学会の評議員資格について(守本理事)

岡崎鈴代(大阪母子医療センター耳鼻咽喉科)、小川武則(岐阜大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科)、小澤宏之(慶應義塾大学耳鼻咽喉科)、小野滋(自治医科大学小児外科)、熊井良彦(長崎大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科)、坂本達則(島根大学耳鼻咽喉科)、楯谷一郎(藤田医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科)、藤本保志(愛知医科大学耳鼻咽喉科)、山下勝(鹿児島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科)(以上、敬称略)が評議員として推薦され、承認された。

なお、現在、評議員である先生の中に、本学会の総会・学術講演会に連続して参加されていない先生がおられるため、評議員資格について検討を行っており、ご意見があればお申し出いただきたいこと、また、小児科の先生や小児耳鼻咽喉科学に関

してしかるべき業績のある開業医の先生も評議員に推薦いただきたいことが、それぞれ呼びかけられた。

6. 年次幹事の推薦(足立次期会長)

富山大学小児科の加藤泰輔先生が推薦され、承認された。

7. 小児耳鼻咽喉科相談医制度の創設について(守本理事)

アメリカ耳鼻咽喉科学会で設けられているサブスペシャリティ制度を参考に、本学会でも小児耳鼻咽喉科相談医制度を創設することについて審議が行われた。その目的(コンセプト)を検討し、コンセプトを練り上げるためのアドホック委員会を立ち上げることが承認された。上記アドホック委員会の委員長に、田中康広理事が推薦され、承認された。

8. 学会公式 YouTube チャンネル運用の件(田中[学]理事)

本学会の YouTube チャンネルのコンセプト、継続運用のための体制づくり、内容更新をお知らせする手段について説明された。

一般の方向けに耳鼻咽喉科への受診ポイントや予防の考え方を示す動画を、医療者向けに新規入会や学会参加者増加につながる内容の動画を、それぞれ YouTube で配信して、閲覧者の増加を図っていく方針が示された。

現在、配信されている動画の制作に学生の協力を仰いでいるが、今後、YouTube 勉強会などを開催して、役員の先生方にもご参加いただけるような体制を作る方針が示された。

来年以降の総会・学術講演会について、講演内容をアーカイブに残すことを提案していく方針が示された。

ホームページの内容更新をお知らせするにあたり、YouTube や Twitter の活用をしていく方針が示された。

上記について、特段の意見はなかった。

9. 会則改定の件(兵頭理事)

現状の会則では内容が不足しているため、それを補足したり、Web 会議や理事選任方法について明確に規定したりすべきという考えから、会則改定案が示された。

具体的には、主に、①名誉会員の選出方法を会則細則に定め、かつ、理事会での承認を経る規定を会則に設ける、②理事長に2名以内の推薦理事の追加を可能とする規定を会則に設ける、③顧問の選出条件および選出年齢の規定を会則に設ける、④総会が現地開催できない場合の規定を会則に設ける、⑤理事会を年1回以上開催すること、および、Web やメールでの開催も可能とする規定を会則に設ける、⑥女

性理事を4名以上とする規定を会則細則に設ける、⑦名誉会員の選出条件を会則細則に設ける、という改定案が示された。

上記については、後日、メール審議にて議決を行うこととなった。

10. 第19回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会会長推薦(伊藤理事長)

第19回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会会長に三重大学耳鼻咽喉・頭頸部外科の竹内万彦教授が推薦され、承認された。

11. 小児気道狭窄の手引きの制作について(守本理事)

小児気道狭窄の手引きの制作について、前田貢作先生(にこにこハウス医療福祉センター小児外科)より班長を引き継ぎ、担当されている。日本小児外科学会からは制作を行うことについて承認をいただいたが、本学会では承認をいただいていた。このため、本手引きの制作について審議され、承認された。なお、本手引きのアドホック委員会を立ち上げることとなり、委員長に守本理事が推薦され、承認された。

以上

理事長:伊藤真人

庶務担当:守本倫子

庶務副担当:仲野敦子

幹事:有本友季子

小森 学

橋本亜矢子

(文責)香山智佳子